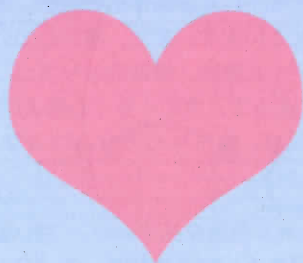


子どもの発達を応援するコミュニケーションペーパー

No.12
2016
SPRING/SUMMER

こころん



長田久雄

桜美林大学大学院

宮尾益知

どんぐり発達クリニック

吉田弘道

専修大学人間科学部

廣中直行

LSI メディエンス

柿沼美紀

日本獣医生命科学大学

特別
寄稿

五十嵐一枝 白百合女子大学文学部教授
「自閉症周辺児の生涯発達」

特集
記事

子育てと音楽

麦谷綾子

鈴木涼子

NTTコミュニケーション科学基礎研究所 日本大学医学部附属板橋病院

ごあいさつ

長 田 久 雄

公益財団法人成長科学協会
心の発達研究委員会委員長

成長科学協会は、1977年（昭和52年）に設立された公益財団法人です。子どもの成長と発達を支援するために、1992年（平成4年）には心の発達研究委員会が組織され、その翌年から毎年シンポジウムを開催しております。こころんは、そのシンポジウムの内容を中心として編集し発行して参りました。今回で12号となります。

シンポジウムでは、毎年様々なテーマを取り上げておりますが、こころんの今号は、昨年6月のシンポジウム「自閉症とその周辺～子どものコミュニケーションの今～」に関連する特集といたしました。自閉症には、高機能自閉症、アスペルガー症候群、レット症候群、広汎生性発達障害など、特徴のある様々なタイプがありますが、それらを連続体としてとらえようとする『**自閉症スペクトラム**』という考え方が提唱され、普及してきております。このように自閉症に対する考え方も、近年、変化してきております。

こうした状況を背景にしつつ、今号では自閉症の診断と見つめ合うことの意味、自閉症周辺児の乳幼児期から成人に至る発達、自閉症と化学物質のオキシトシンとの関係、母乳と親子関係、人と犬との関係、子育てと音楽との関係など、自閉症と子どものコミュニケーションに関するトピックスを、シンポジウムで話題提供をしてくださった先生と心の発達研究委員会の委員に執筆して頂きました。お母様や子どもに関わる専門のお仕事をしていらっしゃる皆様のヒントになれば幸いです。

本年も、6月18日（土）の午後に秋葉原UDXシアターで、思春期に関する公開シンポジウムを予定しております。お誘い合わせてご参加くださいますようお願い申し上げます。

【おさだ ひさお】

桜美林大学大学院教授。子育ては楽しいときも大変なときもあるでしょう。一人だけで抱えこまず、遠慮せずに支援を受けて、楽しい子育て時間を増やしてください。

自閉症周辺児の生涯発達

五十嵐 一枝
白百合女子大学文学部教授

ある駅近くのコンビニの前を通る時、必ず中をちらっと見る癖がつきました。「今日はAさんはいるかな？」と思い、入り口のガラス越しに視線を走らせます。買い物があって立ち寄った時に、たまたまAさんがレジにいても、特別な話をするわけではありません。ちょっと笑いかけて、請求された金銭を支払い、Aさんの「ありがとうございました。またお待ちしています」という、おそらくコンビニの接客マニュアル通りの挨拶で送り出されます。

Aさんは自閉症周辺の特徴を強く持っている女子大学生です。幼児期からずっと私たち治療教育スタッフと関わってきました。現在は大学に通いながら、アルバイトをしています。Aさんのお母様が一人娘の発達の異変に気付いたのは幼児期初めの頃でした。その頃はまだ自閉症への理解は一部の研究者や研究機関に限られており、理解も様々、治療や教育に関してはほとんど試行錯誤状態でした。いろいろな意見があった中で、私たちは、この状態が心因性ではなくて脳の障害であり認知の問題だということだけは確信して、このことを中心に心理学的・教育学的支援を思考して現在に至りました。今振り返ると、迷いや遠回りや失敗は少なくなかったですが、成人期を迎えた彼女の現在を見ると、支援の基本は誤っていなかったようです。

日本の自閉症研究の始まりから約半世紀、理解と対応の変遷を経て現在の自閉症スペクトラムの概念に到達するまで、多くの自閉症周辺児との出会いがありました。Aさんのように何人かの自閉症周辺児については、発達早期からアセスメントや治療的教育を実施しながら、乳幼児期から成人に至る過程の発達と変化を観察することができました。何らかの発達障害を持つ子どもと長い時間をかけて付き合い、その発達過程を、おおげさに表現すれば“生涯にわたって”伴走させてもらえる機会はそう多くありません。これから先も、成人期以降の発達に注目してしっかり付いて行こうと思います。

最近、成人の発達障害に社会的関心が示されています。これからは、発達障害を生涯にわたりフォローアップした事例の多面的研究が重要になると考えられます。また、生命科学の急速な発展は、発達障害の理解や支援方法に今後さらに大きな影響を与え、変化をもたらすでしょう。これからも、自閉症周辺児に特徴的な問題とされてきたコミュニケーション行動を中心に臨床事例と研究を振り返り、生涯発達過程にどのような要因が関与し、その結果、どのような成長があり、どのような生活につながるかについて考えていきたいと思います。

【いがし かずえ】

旧知の仲間たちが引退していく年齢となりました。黎明期の先輩方の後からひたすら続けてきた発達臨床です。引き継いで、さらに発達障害児の生涯発達を理論化してくれる後輩が出てきてくれたらと願うこの頃です。

人と犬は相思相愛？

柿沼美紀 / 日本獣医生命科学大学比較発達心理学教室

人と犬の関係は一万年ほど前から続いていると言われています。その間に犬は人になつきやすい性格になり、人との生活に満足感を抱くようになったようです。最近の研究では、飼い主と犬とが見つめ合うと、人、犬ともにオキシトシンの分泌量が増える場合があることが分かってきました。おそらく人は大昔から、番犬や狩猟のためだけでなく、人に寄り添うことを好むタイプの犬を選んで来たと思われます。その結果、犬も小さい頃から人と生活をしていると、家族の一員として家族を守り、寄り添い、指示に従い行動する能力を身につけるようです。

このような犬の特性をうまく活用して、子どもたちの学習を促したり、ホスピスの緩和ケアやリハビリの手伝いをしてもらう試みが増えています。私達の大学では、単調な作業をする場面や緊張をする場面に犬がいると気持ちに変化が見られるかどうかを研究し始めたところ



◀ 教室を巡回している犬。学生の作業効率が良くなるかどうかは不明ですが、実習は楽しめるようです。

【かきぬまき】

我が家のイヌたちは家族を寝かしつけるのが得意です。誰かが昼寝をすれば、必ず一緒に寝ています。夜は家族が寝るまではどんなに眠くても起きています。時々待ちきれずにうたた寝をすることはありますが。

自閉症とオキシトシン

廣中直行 / LSIメディエンス

私は心の病気を治療する薬の研究をしています。心の病気が薬で治療できるのか、疑問に思われる方もおられるでしょうが、脳の働きをそこはかとなく活発にしたり鎮めたりすることはできます。薬を適切に使うと心理的な介入の効果も上がるのです。

この分野では自閉症に関連して最近注目されている化学物質があります。それはオキシトシンという化学物質です。オキシトシンは子宮を収縮させたり、母乳の分泌を促進したりするホルモンですが、脳にも作用していることがわかりました。アメリカの草原に住むブレイリーハタネズミという動物には、厳格な一夫一婦制を保っているものがあります。この動物ではオキシトシンが夫婦の絆を作るのに役立っていることがわかりました。人間の研究でも、オキシトシンを噴霧して鼻から吸い込むと、相手に対する信頼感が増すという結果が報告されました。そこで、オキシトシンは自閉症のお子さんたちが「心を開く」役に立つのではないかと考えられて研究が進んでいます。将来的にはオキシトシンやそれに似た化学物質が、自閉症の治療を助けるために使われるようになるかも知れません。ただし、現在のところオキシトシンが自閉症の原因に関係しているとは考えられていません。あくまでも対症療法のひとつということです。オキシトシンの作用にはまだわからないところがたくさんあります。動物実験の結果は首尾一貫したものとは言えず、ネズミの子供にオキシトシンを与えるとかえって不安が強くなったという報告もあります。

これからもオキシトシンの研究は進むと思いますが、心の問題は化学物質だけで解決できるわけではありません。自閉症のお子さんたちに何らかの薬物が補助的に使える日が来たとしても、暖かい養育の大切さが変わることはないでしょう。



【ひろなか なおゆき】

私は心理学の出身ですが、精神薬理学という新しい領域で仕事をしています。子どもたちは独立してそれぞれの赴任地に行き、私も単身赴任ですが、LINEで家族のコミュニケーションを取り合っています。

新しくて古い観点からの治療

宮尾 益知 / どんぐり発達クリニック

自閉症はどのようにして診断するのだろうかとよく言われます。自閉症の診断は、そのサインがあったらではなくて、重要な発達課題が達成されていない事により診断します。発達課題はいずれ達成されていくのですが、それまで大変な時間がかかっていきます。

年齢毎に考えていきましょう。自閉症の人は目が合わないことが問題であると小児科ではよく言われます。一方、大人の自閉症を診ている医師からは、「目は合っているけれど」といった答えが返ってきます。大人になると目は合うようになりますが、むしろじっと見つめるようになります。

こう考えていくと、過去に重要視されていた視線の問題はあまり重要ではないとの意見もありますが、最近興味深い論文が出ました。子どもを育てている時、母は子どもとの間にしっくりした感じを持ってきます。抱っこしてしっくり感、見つめ合って(注意共有)しっくり感が生まれてきます。このことがどういうことなのかよく分かっていませんでした。それが、母子の注意共有からマバタキが同じリズムになってくると、脳内では大脳皮質下前頭回の活動が同期することが分かってきました。

このように、見つめ合うことからお互いのしっくり感、すなわちハーモニー・同調行動が生まれてくることが証明されました。健常児はお互いに見つめ合うことが簡単にできるようになります。このように考えていくと、相手の視線を感じ、視線を相手に向けることの必要性が、自閉症本態にも関わってくることも証明されました。自閉症治療も変わってくるかもしれません。

【みやあますとも】

小児科医から始まった医師として、神経に目覚めてんかんや脳性麻痺の子どもたちとつきあい、成育医療センター赴任後に児童精神科医になりました。小児科の基盤に神経学的考え方で、「発達障害の子どもたち」が大人になって社会に出て行くまで、もしがいたらその家族までみていくことを考えています。

母乳と親子関係

吉田 弘道 / 専修大学人間科学部

小児科医と、小児歯科医、心理、栄養の専門家からなる委員会（小児科と小児歯科医の保健検討委員会）にメンバーの一人として参加しています。

いろいろなテーマについて話しあい、その成果を適切な時期に、日本小児歯科学会のホームページ、あるいは本の形で報告しています。

例えば、「母乳」についての話し合いを紹介しましょう。

小児科医と栄養士からは、身体の健康面に関する話が出てきます。母乳は粉ミルクよりも優れているところがある、衛生面に課題を抱えている発展途上国では、乳児の死亡率は粉ミルクの方が高く、母乳の方が低い、しかし我が国のように衛生面で優れている国では、母乳も粉ミルクも差はないという結論になります。

小児歯科医からは、3歳以下の子どもの虫歯の多くは母乳によるものである、では乳児の母乳による虫歯はどうやって予防するか、という話が出てきます。それには、母乳を飲ませた後に歯茎と生えてきた乳歯をガーゼで拭く程度でよい、という話になります。

そして心理学の私には、母乳と粉ミルクとでは親子関係の安定度に違いがあるか、と質問がきます。その答えは「違いはない」です。世間では、母乳育児を推奨する動きがあり、それに励まされ助けられている母親がいます。その一方で、母乳育児を推奨する考えに呑みこまれてしまい、母乳で子どもを育てることができなかったことを悔やむ母親や、母乳の出が少ないにもかかわらず母乳で育てようと頑張りすぎて消耗している母親もいます。衛生面の安全が確保されていれば、子どもに何を飲ませるかはそれほど問題ではありません。子育ては、どのように相手をしながら授乳するか、どのように子どもと付き合うかが、本来の課題なのです。

【よしだ ひろみち】

発達臨床心理学を専門とし、子どもたちの心理発達援助と子育て支援の仕事を行っています。日本小児保健協会・小児科と小児歯科の保健検討委員会委員・編集委員会委員、日本小児精神神経学会・代議員、日本臨床心理士会・保育臨床専門部会委員。

子育てと音楽

麦谷 綾子 / NTTコミュニケーション科学基礎研究所

子守歌や遊び歌のような子ども向けの音楽は、今も昔も世界のあらゆる地域に存在しています。子育てと音楽は、なぜ時代や文化的背景を超えて、常に密接な関係にあるのでしょうか。

音楽は、時々刻々と形を変えていく発話と異なり、常に一定のメロディ、歌詞、リズムで表現されます。ここに、音楽が子育てで多用される秘密があるように思えます。つまり、音楽というパターン化された共通の表現を持つことで、子どもも大人もいつでも一緒に同じように音楽を楽しむことができるのです。さらに、音楽を共有することは、同じ集団に属する仲間としての連帯感を強め、親子の絆を深める働きもあると考えられています。また、寝かしつけに使う子守歌では、聞きなれたメロディと歌詞、規則的なリズム（そしてリズムに合わせたトントン）によって、次にくる「心地よい刺激」を予測できます。この予測可能性が、赤ちゃんの安心につながり、眠りへと導くのではないのでしょうか？

ところで、最近、テレビの赤ちゃん番組を見ていて、「誘い歌」のようなジャンルがあることに気づきました。着替え、歯ブラシ、トイレ、お茶（！）。苦手なものでも歌に乗せて誘われると、なんだか子どもものってくる。子どもの様子やママパパの気持ちを感性のまま即興で歌にする「作り歌」もお勧めです。ぜひ、いろいろな音楽を子どもと一緒に自由に楽しんでみてください。

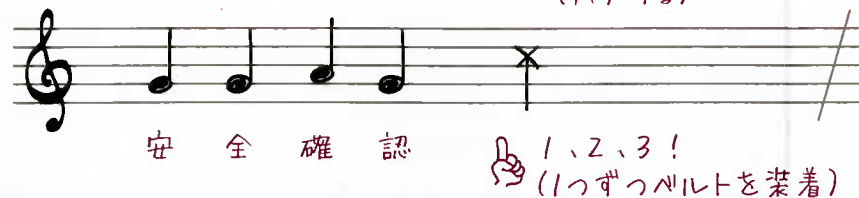
【おぎたにりょうこ】

NTTコミュニケーション科学基礎研究所人間情報研究部主任研究員。長女はそうでもなかったのに、次女は大の音楽好き。いつでもどこでも常にノリノリで歌っています。音楽への感受性の個人差ってどこから来るのでしょうか？

「子育てと音楽」に合わせて「にこにこバギー探検隊」「せつしや、食べ物トンネルでござる～」を今号のために書き下ろしてもらいました。「おふるだZOO」もご紹介します。3曲とも作詞作曲は鈴木涼子先生（音楽療法士）です。

にこにこバギー探検隊

バギーに乗ってくると助かる場面、ありますよね。スムーズに乗ってもらうために、バギーに乗ることを楽しくしてみましょう。



装着できたら…
「安全、まるまるまるまる～！」
(子どもの顔や体に指で丸を描く)

「〇〇くん、かたかた道ですか？ツルツル道ですか？」「かたかた!」「おかりました!」「探検出発!!」

→ (隊長、あるいは好きなキャラクターなどでも)
(道は、ぐにゃぐにゃ、まっすぐ、上り、下り、広々、ぎゅうくつ、ぼかぼか、冷え冷えなど適宜)



Point1「乗る前・乗る時が楽しい」

大好きなママやパパにハグされたり、びゅーんと抱っこされたり、「まるまる～」とされたり、子どもが喜ぶ動作が盛り込まれています。

Point2「乗ってからも楽しい」

子どもが主体となって探検が進みます。どんな道が聞かただけではなく、「車がいたら教えてください」「信号が何色が教えてね」など、周りにある様々なものを話題にすると楽しいと思います。

2つのポイントをおさえることで、だんだんと、バギーに乗ることと楽しい思い出がつながっていきます。女の子や、お世話好きなお子さんは「ぬいぐるみやお人形をケガないように目的地まで連れて行ってあげる」という設定にすると夢中になるかもしれません。機嫌のいい時から取り組んでおけば、乗り気ではない時も「探検隊しよう♪」と誘える確率が高まります。

せつじや、食べ物トンネルでござる〜

子どもは、聞きなれないフレーズや不思議な言葉に興味を持つことが多いので、歌舞伎風エッセンスを加えてみました。歌に合わせて苦手なものにも挑戦してみましょう。

歌舞伎風に

おとな「ニコにいで」たる食べ物は みどりのピーマンでござりまする〜」
▲子どもに言ってもらってもOK



いざ トンネルへ — (食べ物を口に入れる)



いざ! テンテケ テンテン もぐもぐ テンテケ テンテン もぐもぐ

適宜「い」かえし

ニ(子どもは飲み込んだら
口を開ける)



パパ!!

(みえをきるように)

おとな「よっ! おみぞと!
トンネル屋!」

Point!

この歌は、嫌いな食べ物の時だけ歌ってもうまくいきません。好きな食べ物で流れを作って、少しずつ苦手なものにも挑戦してもらいましょう。

お子さんが食べ物を飲み込むタイミングに合わせて、歌の強弱やテンポを変えると雰囲気が出ると思います。

お子さんが飲み込んで口を開けたら、歌舞伎の掛け声のように褒めてあげてください。

おふろだZOO(ズー)

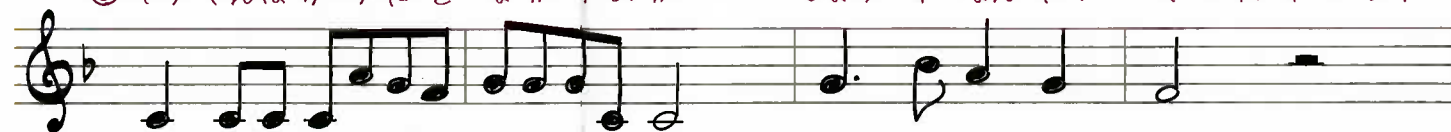
いろんな動物をイメージしながら、親子で楽しく身体を洗ってみませんか?
お子さんが自分で洗ってもいいですし、パパやママが洗ってあげながら歌うのもいいでしょう。最後は、好きな動物を一つ選んで鳴き声を真似してみましょう。



① ラッコはおなかを } あらうのが
② タコはせなかを }
③ ぞうさんはからだを } ながすのが

じょうず なんだっ て —

じょうず なんだっ て〜パオ〜ン!



{ キリンはおくびを } あらうのが
{ おさるはおしりを }
ながいおはなで } ながすのが

じょうず なんだっ て —

じょうず なんだっ て〜パオ〜ン!

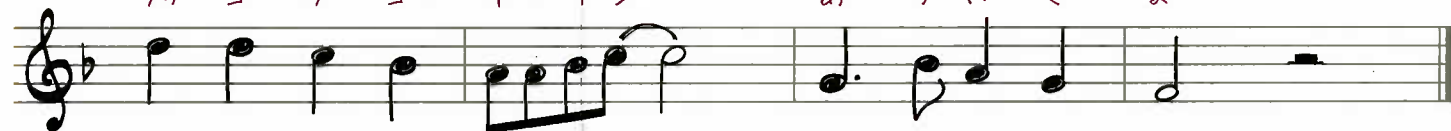


{ あらいぐま は おててを } あらうのが
{ おうま は あーしを }
ラッコ タコ キーリン

あらう の が

あらう の が

あらいぐま



ゴシゴシ とっても
パカパカ とっても
さるうま ぞうさん

じょうず なんだっ て —

じょうず なんだっ て〜パオ〜ン!

み〜んな おふろだ ZOO! ウッキー!

【すずきりょうこ】

日本音楽療法学会認定音楽療法士。芸術学博士。日大板橋病院・獨協越谷病院などで、いきいきとしたコーモアのある音楽療法を目指し、日々精進しています。お子さんと一緒に「楽しんで」取り組んでみてくださいね!

第29回公開シンポジウムのご案内

成長科学協会 心の発達研究委員会は、毎年6月に公開シンポジウムを開催しています。どなたでも無料でご参加いただけます。

「思春期の不思議 ～人生の大切な時期の意義を知る～」

日時：平成28年6月18日（土）13：30～16：30

会場：秋葉原UDXシアター

●長谷川眞理子（総合研究大学院大学理事・副学長、先導科学研究科教授）

「思春期はその後の人生の指針を作る」

●宮本信也（筑波大学副学長・理事、附属教育局教育長）

「思春期の心の問題」

●尾崎孝宏（鹿児島大学法文教育学域教授）

「モンゴルの思春期—牧畜社会における子どもと大人の間」

◎指定討論：児玉浩子（帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学科教授）

◎司 会：柿沼美紀（日本獣医生命科学大学比較発達心理学教室教授）

麦谷綾子（NTTコミュニケーション科学基礎研究所）

参加無料

氏名、人数、連絡先（電話番号かメールアドレス）を明記のうえ、
件名「第29回シンポジウム申し込み」でお申し込み下さい。

お申し込み・お問い合わせは、成長科学協会事務局まで。

電話：03-5805-5370 FAX：03-5805-5371

E-mail：kimoto@fgs.or.jp

子どもの発達を支援する
コミュニケーションペーパー

こころん

2016年5月13日発行

発行 公益財団法人 成長科学協会

心の発達研究委員会

〒113-0033

東京都文京区本郷 5-1-16 VORT本郷

電話 03 (5805) 5370

FAX 03 (5805) 5371

編集委員

高橋桃子

柿沼美紀

上村佳世子

制作 / デザイン

高橋暁也

印刷

榮和印刷株式会社

◎ 本記事の無断転用を固く禁じます